

令和 7-8 年度 各種アンケート結果（就職先・進路先アンケート）

IR 委員長 伊木亜子

令和 7 年度から令和 8 年度にかけて、本学卒業生の就職先・進路先である企業・法人へ依頼し Forms によるアンケートを実施した。依頼先について、食物栄養学科卒業生就業先 5 件（回答率 100%）、保育学科卒業生就業先 9 件（回答率 81%）であった。

本学卒業生は、本学の「教育目標」および「学習成果」に相当する能力を身に付けているか、各項目をそれぞれ 3 段階で評価してもらった。「豊かな人間性」、「確かな専門性」、「地域社会への貢献」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「コミュニケーション力・社会人力」の各項目における評価を図 1～6 に示す。全体として「身に付いていない」とする回答は少数で、「どちらともいえない」を合わせても「身に付いている」の件数を下回った。ただし、回答は本学卒業生の離職率が低く、継続的な関係を構築している企業・法人が中心であるため、結果が肯定的な評価に偏っている可能性がある。

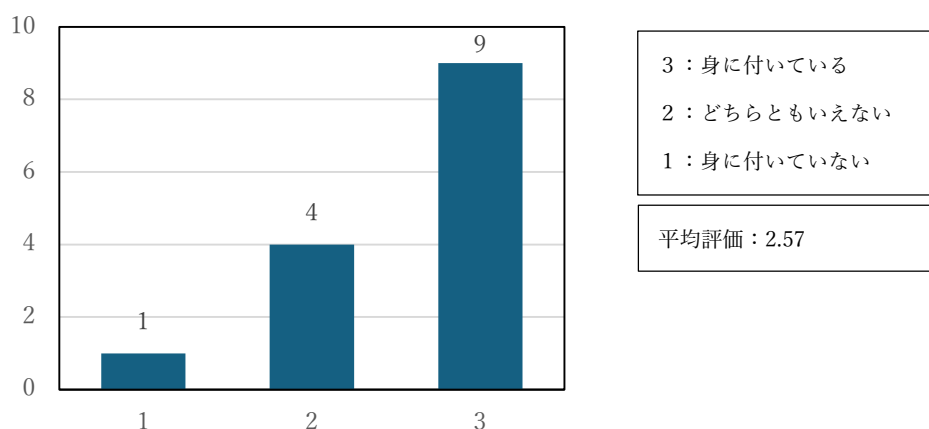


図 1 「豊かな人間性」(n=14)

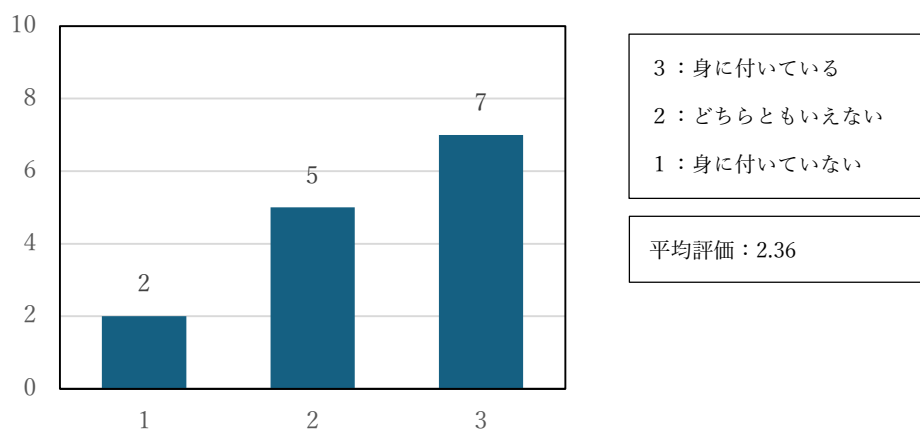


図 2 「確かな専門性」(n=14)

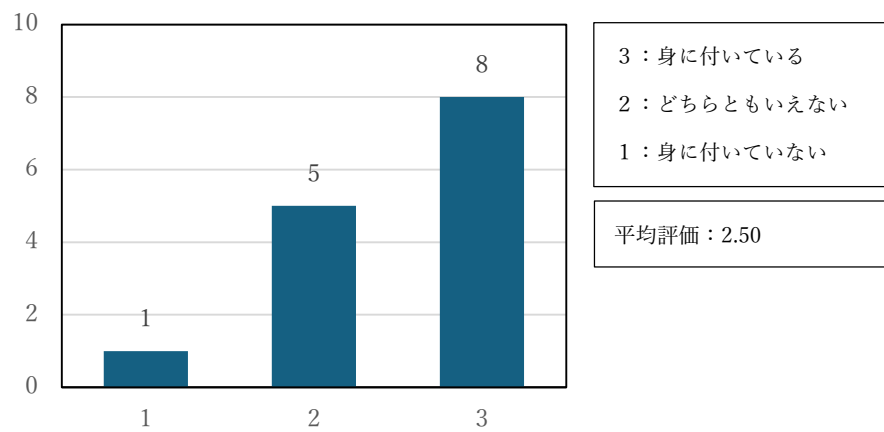


図3 「地域社会への貢献」(n=14)

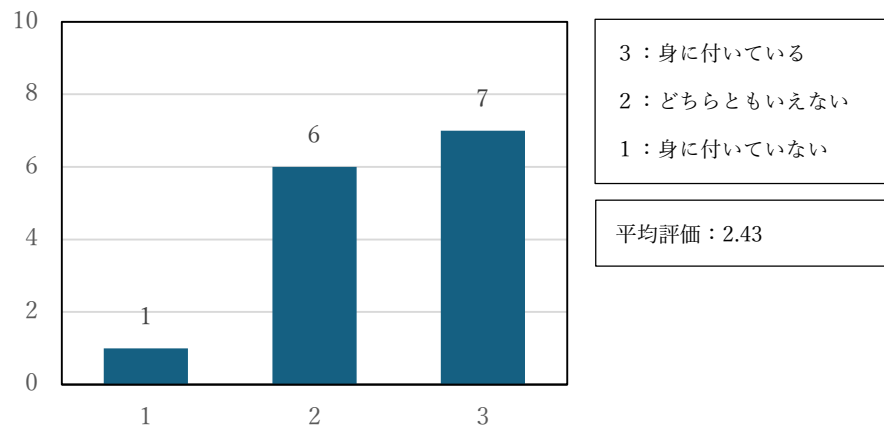


図4 「知識・技能」(n=14)

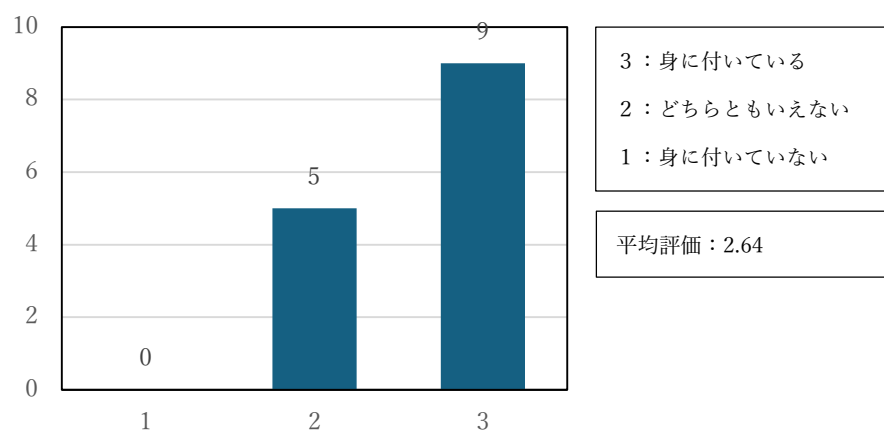


図5 「思考力・判断力・表現力」(n=14)

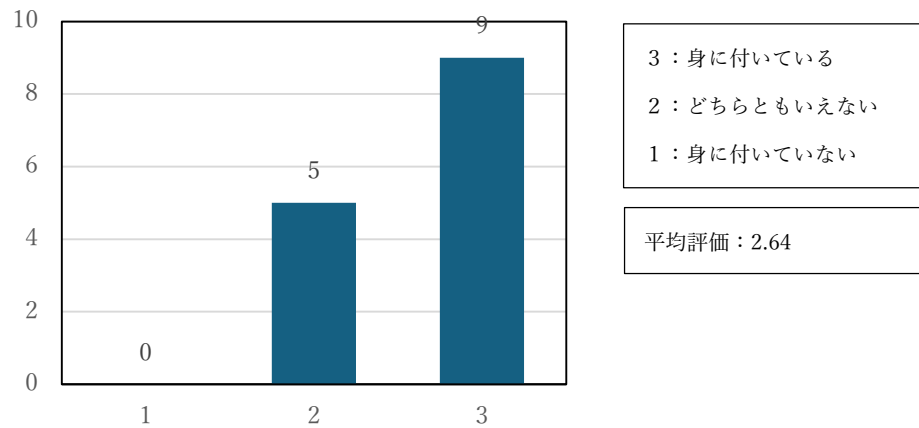


図6 「コミュニケーション力・社会人力」(n=14)

また、学生に求める資質・能力について該当するものすべてを選択してもらった回答結果を図7に示す。

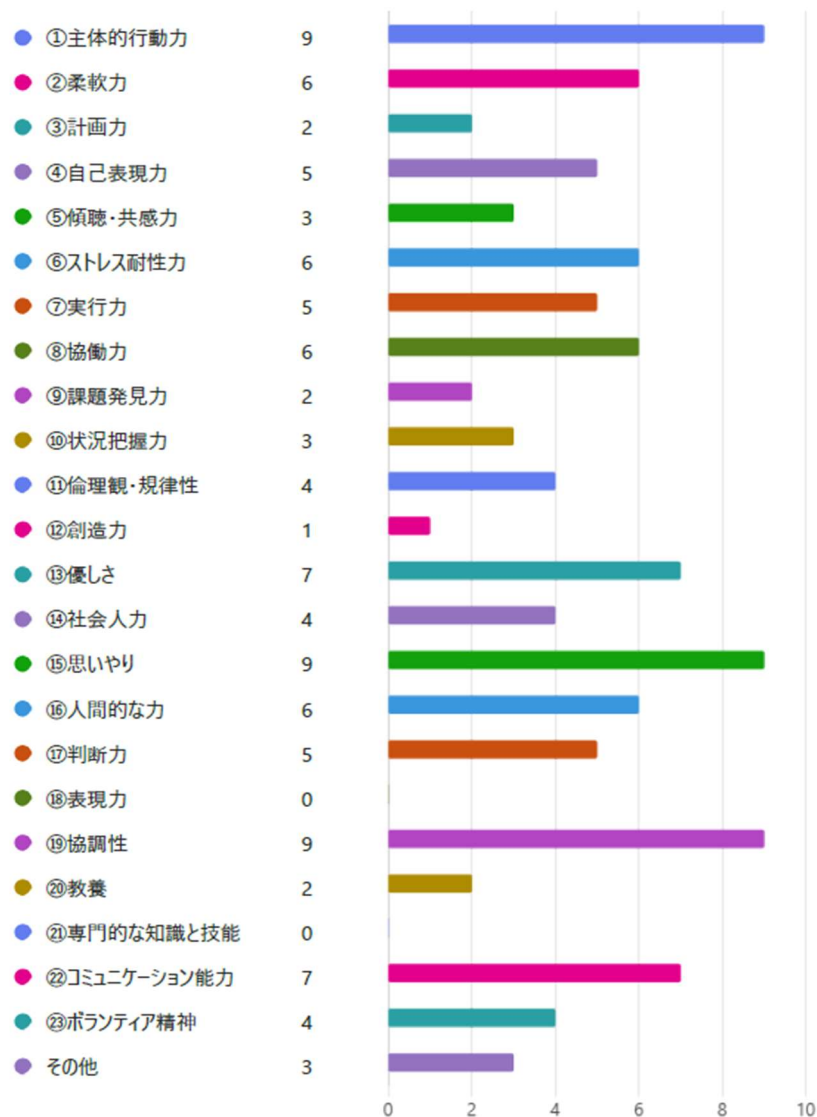


図7 「学生に求める資質・能力について該当するものをすべて選択してください」(複数回答可)

「主体的行動力」「思いやり」「協調性」が各 9 件、「コミュニケーション能力」「やさしさ」が各 7 件、「協働力」「柔軟力」「人間的な力」「ストレス耐性」が各 6 件であった。これらの結果から、就職先・進路先では他者と協働しながら主体的に行動する力が重視されており、実習や演習において協働、対人調整、主体的な課題遂行を一体的に育成する必要性が示された。

その他、本学への要望について以下にまとめる。

- ・ 学生の皆様には、様々な経験や話から見識を積んでいただくことが、社会に出てからの糧になるのではないかと思う所なので、失敗を恐れずに色々な世界に飛び込んでほしいと思います。
- ・ この度、法人内の函館短期大学卒業生（新卒、中途）の集計を行う中で、その人数の多さと、離職率の低さに驚愕したと同時に、当法人にとって貴校との長きにわたる繋がりはとても重要であると再認識した所でございます。この先、形は変わるのかもしれませんが、函館短期大学魂は当法人内においても卒業生などで引き継がれていくものと思っております。

今後も当法人に対してご助言ご協力の程よろしくお願いいたします。

- ・ 良い人材を養成してくれている。素晴らしい取り組みがたくさんあります。
- ・ 函館短大の学生さんは、実習に取り組む姿勢が立派だと常々思います。礼儀や実習態度・課題への取り組み方など、学生さんの資質はもちろんかと思いますが、学校での事前指導やフォローがしっかり行われていることを感じます。函館の質の高い養成校として頼りにしていましたが、来年度で閉校ということで残念でなりません・・・。

回答結果は、卒業生の資質・能力がおおむね肯定的に評価されていることを示した一方、回答先が継続的な関係を有する企業・法人に偏る可能性があるため、今後は回答先の拡大と継続調査により教育改善への活用精度を高める必要がある。

また、本学の教育内容や教育サービスの成果や効果の検証と改善、教育目標の見直し等、教育の質向上に活用すべく、本学卒業生の就職先・進路先である企業・法人と継続的に連携することが重要である。

以上